

# ウメ「福太夫」のコンパクト樹形で早期多収

本県育成品種のウメ「福太夫」は、収量が多くて優良なのですが、枝の粘性（しなる力）が低いため、従来の開心自然形では樹冠が拡大すると積雪や着果による負荷が大きくなり、主枝などの骨格枝が折れることがあります。また、開心自然形は枝の配置が複雑なため栽培初心者にはせん定が難しく、樹高が高くなるため収穫やせん定などの作業に脚立が必要で作業効率がよくありません。そこで、骨格枝への負担を軽減して「福太夫」の枝折れを解消し、作業しやすく早期多収になるコンパクト樹形を紹介します。

## 1 平坦地では『片側一文字形・V字トレリス仕立て』

主枝を1本水平に倒し、実を生らせる側枝をV字形に簡易棚へ誘引します(写真1、2)。植栽間隔は樹間1.5m×列間3.5~4mを基準とし、主枝高は0.8~1m、側枝は仰角55°~45°に誘引します。



写真1(左)、写真2(右) 片側一文字形・V字トレリス仕立て

自家施工できる簡易なものですが、棚を設置するため急傾斜地や不整形な圃場にはあまり向きません。

## 2 傾斜地や不整形な圃場では『2本主枝・開心形』

主幹の高さを低くし、主枝をほぼ同じ高さから分枝させて杯状に開張させます。2本主枝・開心形(写真3)では、樹列方向に伸ばした2本の主枝に側枝を30~40cm間隔で配置します。垂主枝を作らず樹形を単純にし、主枝の枝折れを防ぐ支柱は樹列方向のみとして直線的な作業動線にするので、作業効率も向上します。



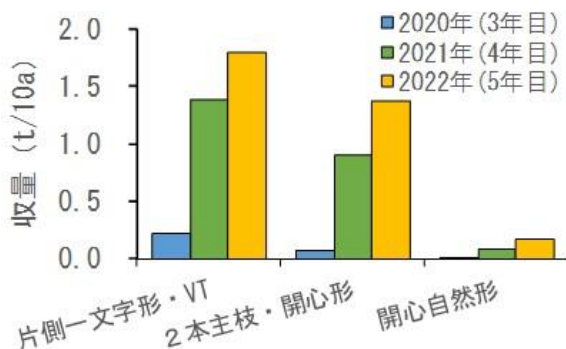
写真3 2本主枝・開心形

棚を設置しないため、傾斜地や不整形な圃場にも適応します。

### 【技術の効果およびコスト】

技術の導入効果として、植栽から4~5年目には収量が約1.5t/10aとなり、5年目までの累積収量は開心自然形の約10倍と、早期多収になります(第1図)。また、片側一文字形・V字トレリス仕立ては作業に脚立が不要で、2本主枝・開心形は2~3段の脚立で作業でき、作業時の脚立使用率は開心自然形成木の40~50%になるため高所作業が減り、安全で楽に作業ができるようになります。

コストとしては苗木や棚資材などで初期費用が増額してしましますが、早期多収であるため収入も増えるので、初期費用を7年で減価償却すると、植栽5年後には経営収支が黒字になる試算です(第1表)。



第1図 10a当たり換算収量(～5年目)

第1表 植栽5年目までの経営収支 (千円/10a)

樹形	片側一文字形 ・V字トレリス	2本主枝 ・開心形	開心自然形
植栽本数	138本	54本	15本
累積収量	3.41 t	2.35 t	0.25 t
販売額	955	658	71
初期費用	585	214	71
諸経費	191	132	14
所得	179	312	-14

(農試 園研C ウメ・果樹研究G)